

1. 格差拡大を容認しても大丈夫なのか

● 格差容認論へ

- 当初政府は「格差拡大は見かけにすぎない」と主張
- 一転、「格差の何が悪いのか」と主張
- 当時の国の指導者、小泉首相の発言

● 「格差の何が悪いのか」発言の意図（推測）

- 猛反発を覚悟してあえて発言したのか？
- 国民から多くの共感を得られると考えたのか？

● 経済効率こそ重要という小泉首相の信念

- 経済効率のために不平等が出てしまってもやむを得ないという考え
 - 「成功者をねたんだり、能力のある者の足を引っ張ったりする風潮を慎まないと、社会は発展しない」との発言
- 経済学者として学問的にも真剣に議論すべき問題

- 「**効率性と公平性のトレードオフ**」という考え方

- トレードオフ

- …一方の優先のために他方の犠牲はやむを得ない

- 公平性を犠牲にしなければ効率性は高まらない

- **格差拡大の容認or公平性を犠牲にしなければ経済効率は高められないのか？**

- そうはならないと主張

- 「収穫逓減の法則」

- …ある要素(ex.有能な人への給与)を高めれば高めるほど、期待できる効果は低減する

- 所得が高くなると生活レベルも上がるが、維持をするには高いコストがかかる

2. 貧困者の増大がもたらす矛盾

- **経済効率の問題**

- 低賃金労働者が増える → 労働意欲の低下

- **人的資源のロス**

- 失業者が増える = 人材が有効に使用されていない

- **治安の悪化**

- 貧困者や弱者は劣等感を持つ → 高所得者、社会を憎む

- **社会の負担増**

- 貧困者が増える → 経済援助負担が自動的に増える

- **倫理的な問題**

- 強者と弱者が並行して存在 → 人間的？

- 勝者敗者の固定 → いじめが社会的に定着する恐れ

- **格差社会の代表、アメリカの例**

「ゲートタウン」: 富裕層

— 富裕層が自分たちのコミュニティを壁で囲い差別化

「ゲッター」: 貧困層

— 貧しくみすぼらしい家が集まった場所

「健康格差」

— 貧困者は早死し、お金持ちが長生きする

→ 食事、生活、保険制度の仕組み

格差拡大、セーフティネットの削減・・・

日本でも同様の問題が起こりつつある

3.ニート、フリーターのゆくえ

- **非正規労働者において若者に多い**

- フリーター

- ニート(ここ数年で注目)

- **ニートの現状**

《総務省調査》1993年 40万人台

2002年 60万人超

20万人以上増加

- 10年以上前から無業の若者がかなり存在していた

- 2000年代から壮年のニートが増加している

- 学校卒業後ニートになってから抜け出せない

- **フリーターの現状**

《厚生労働省調査》1982年 50万人

2000年代 200万人超

《内閣府調査》 2002年 417万人

定義の違いにより差

- **どのような人がフリーターになるか**

- 中卒や高卒 男性71.3% 女性65.0%

- 学歴の低い人たちがフリーターになる可能性が高い

- 実際はフリーターの多くが正社員を希望

- **フリーターの生涯賃金** (パート、正社員との比較)

- 正社員 2億791万

- 常用非正規雇用 1億426万 (正社員の半分程度)

- パート労働 4637万

- **フリーターとニートの将来**

- 《フリーター》最低限生活できる程度の低賃金

- 家族、子どもを持つ一般的なライフスタイルが難しい

- 《ニート》経済的支援を得ている親がなくなった場合

- 一気に貧困層へ (その予備軍が現在60万人以上)

4.階層の固定化と人的資源の危機

• 格差拡大と階層の固定化

—機会の不平等化が進行

→親の所得、階層、職業などが子どもの教育などに影響

→格差拡大が続くと階層の固定化に向かう恐れ

→競争の活性化が逆に抑えられてしまう

《階層の固定化の例》

プロ野球選手

父親の功績、名声で大きな
注目を浴びる



その後の息子の地位は本人の能力と努力次第

政治家

親の後継者、人脈、地盤
を受け継ぐことで政治家
に



能力を判断することが難
しいため、自然に淘汰さ
れることはない



危惧

- **階層の固定化に対する危惧**

- 親の地位、職業を背景に適していない地位、職業に就く

- 競争の活性化につながらない

- 万一無能な政治家が生まれたら国民に大きなマイナス

- **イギリスという階層社会**

- 階層が厳然と存在、日常生活に浸透

- 言語も違う

- … エリート: オックスブリッジ、ベッカム: ワーキングクラス

- **階層固定化に向かいつつある日本**

- 本人の意思、能力が反映されない社会

階層固定社会へ誘導？ 格差是正？

5. 格差をどこまで認めるのか

- **格差は必ず存在するという事実**

— 性格、能力、健康などさまざまな格差が世の中には存在
→ だからといって100%容認してもよいのか？

- **格差に対する二つの考え方**

- ① 格差の上層と下層に注目する考え方

… 二層の差を縮めるor縮めない (貧困者の存在は容認)

- ② 下層が全員貧困でなくなるためにはどうすればよいか

… 二層の差の存在は認める (貧困者ゼロの世界を想定)



後者の考えを支持

貧困者が増えることに大きな問題がある

- **有能な人が報われる社会をつくる**
 - 文化や技術、経済の発展にも貢献
 - その精神が強いアメリカの社長の年収は一般社員の100倍超
- **どこまで格差を認めるか**
 - 競争には必ず勝者と敗者(敗者をどう扱うか)
 - イギリスやアメリカでは国民の判断に任される
- **格差と企業の生産性**
 - 社員と一般社員の所得100倍or10倍どちらがいいのか
 - ・トヨタの社長はアメリカの社長の所得よりも相当低い
 - 非常に効率のいい生産性

経済効率、生産性の面から格差は小さいほうがいいのでは